

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.26
平成25年1月10日

復活と再生一巳年にあたって

今年^{みどし}は巳年です。5年生のほとんどの児童が巳年です。蛇は脱皮をすることから、「復活と再生」という言葉の連想が言われます。フィギュアスケートの分野では、中京大の浅田真央選手が、一時はスケートを止めることも考えた時期もあったほど不調に悩んでいたそうですが、グランプリシリーズ優勝、全日本選手権優勝と見事に復活を果たしました。

また、お正月の第88回箱根駅伝では、昨年19位に終わった日体大が予選会から出場して、見事30年ぶり10度目の総合優勝を果たしました。

浅田選手にしる、日体大駅伝部にしる、種目の違いはありますが、自分を信じ、仲間を信じ、目標に向かって強い心で努力を続けた結果が、復活へとつながったのではないかと思います。桜小の児童のみなさんも、思うようにならないことや失敗に対して、「どうせ、だめなんだ」と否定的に考えず、強い心で努力を続けてほしいと願います。

始業式の話より（1／7）

「友達にあげたリンゴ」

さて、3学期の始めのお話は、福岡県に伝わる「友だちにあげたリンゴ」の話をします。

昔々あるところに、4人の男の子をもつお百姓さんがいました。1番上の子どもの名前は太郎、2番目は二郎、3番目は三郎、4番目は四郎といいました。あるとき、お百姓さんは、子どもたちのお土産にりんごを買って帰り、二つずつ渡しました。

次の日の晩、お百姓さんは、子どもたちを集めてリンゴのことを聞くことにしました。まず、一番小さい四郎に尋ねました。「四郎や、りんごはどうした」とすると、四郎はニッコリ笑い、「みんな食べちゃった。おいしかったよ」と言いました。この後、お百姓さんは「太郎はどうした」と尋ねました。太郎は「リンゴの種をとって、リンゴの木をつくるよ。」と、答えました。次にお百姓さんは「二郎はどうした。」と尋ねました。二郎は「友だちに見せて、売ってやったよ。すごく儲かった。」と答えました。最後にお百姓さんは三郎に尋ねました。「ところで、三郎はどうした」「・・・」。大人しくて気の弱い三郎は何も言いません。それでも、お百姓さんが「三郎はどうした。三郎はどうした・・・」と、何度も尋ねるので、三郎はしかたなく「みんな、あげちゃった」と答えました。

「なに、あげてしまったと。せっかくお土産に買ってきてやったのに、いったいだれにあげたんだ」

三郎はいよいよ泣きそうな顔で言いました。

「友だちが病気で寝ていたので、持って行ってあげたんだよ。でも、友だちがもったいなくて食べられないと言うので、枕元に置いてきた。」と言いました。

ところで、皆さんが太郎や二郎、三郎、四郎のように、リンゴをお土産にもらったとしたら、どうしますか。4つから1つ選んで、手を挙げてください。

- 1 四郎のように「食べてしまう」人はいますか。
- 2 太郎のように「種を植えて、リンゴの木をつくらうとする」人はいますか。
- 3 二郎のように「売って儲けようとする」人はいますか。
- 4 三郎のように「困っている人に、あげようとする」人はいますか。

このお話には続きがあります。お百姓さんが兄弟たちに語った話の続きを聞いてください。それを聞いたお百姓さんは、思わず三郎を抱き寄せて頭をなでました。「えらいぞ、三郎」

それから、他の兄弟たちに向かって、こう言いました。

「リンゴを、食べるのもいい。リンゴの種を植えて、リンゴを育てるのもいい。リンゴを売って、金もうけをするのもいいだろう。だが、お前たち、三郎のように人を思いやる気持ちを絶対に忘れてはいけないよ」

校長先生は、桜小の児童の皆さんが三郎のような優しい心をもってほしいと思います。

これから始まる3学期は、各学年、今年1年間のまとめの学期です。1～2学期の今までの自分の生活を振り返ってみて、お友達のことを思いやることができた人も、あまりできなかった人も、「人を思いやる気持ち」を大切に、3学期を過ごして下さい。

